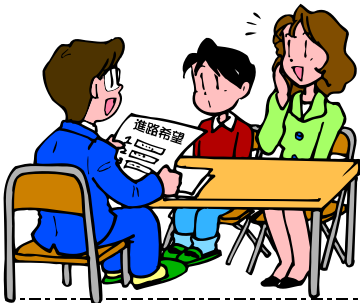




☆自分の将来を真剣に考える！進路決定間近☆



第3回実力テストが終わり、次は11月6日(火)の第2回共通テスト(第4回実力テスト)で、三者面談前の判定材料となる最後のテストとなりました。三者面談を目の前にして、いよいよ進路を選択し、決定しなければならない時期がやってきました。

今回の第3回進路希望調査が三者面談の資料になります。御家庭でも十分話し合いを重ねた上で、記入し、期限内に提出してください。23日(水)〆切です。

【三者面談を行う前に話し合っていたきたいこと】

- ① 第1志望校の決定(学校名&学科・コース名) ※三者面談時に「なぜその高校を受けたいのか？」聞くかもしれませんよ。
- ② 専願の有無(私立高校の場合)と出願をする公立高校
- ③ 第2志望以降の高校の学校名&学科・コース名
- ④ 第1志望に不合格だった場合の進路先
- ⑤ 推薦入試の申請の有無
- ⑥ その他(将来の夢・学科併願・抱えている悩みなど)

☆目に見えない根っこが大事☆

「根っこ」は一体いつ伸びるのか、知っていますか？以前読んだ本に答えがあったので紹介します。



植物にとって根っこは、水や養分を吸収したり、体を支えるための大切な器官である。根っこがなければ、植物はたちまち干上がってしまうし、根っこが十分に張っていないと、茎が簡単に倒れてしまう。同様に、人間にとっても「根っこ」は大切なものだ。「根気」や「根性」「根本」など、「根」という言葉が人の本質を表すことからそれがわかる。

それでは、その根はいつ伸びるのだろうか。水栽培されているヒヤシンスなどを見ると短い根が出ているだけで、根っこはあまり伸びていないし、細かい根はほとんど生えていない。水が十分にある条件では、必要以上に根を伸ばす必要がないのだ。水がないところでは、植物の根は水を求めてグッと深く伸びる。そして、四方八方に張りめぐらされた根が、大地をしっかりとつかむのである。根が成長するのは条件に恵まれたときではない。苦しいときにこそ、根が伸びるのだ。恵まれたときは、茎を伸ばしたり葉を茂らせるのに忙しくて、根は伸びている暇がない。干されたときこそが成長のチャンスである。土の下に伸びた根っこは、目に見えないがその植物の実力そのものである。毎日、水を与えている庭の草花が夏の日照りで萎れているのに、誰も水をやらない道ばたの雑草は青々と茂っている。日照りにあったときに、その植物の真の強さがわかる。雑草に水をやる人はいない。けっして恵まれた条件に生えているとはいえない。だからこそ、毎日、水を与えられている草花とは根の張り方が違うのである。

『雑草に学ぶ「ルデラル」な生き方』稲垣栄洋著

目に見えない「根っこ」を育てるのは、恵まれた環境ではないのですね。もがき、苦しみ、悲しみ、涙が出るときなんですね。もし、今苦しいのであれば、それは「根っこ」が伸びている証拠です。この先の世界で、きっと丈夫な幹や葉や実を作ってくれることでしょう。「実を結ぶ」とはこのことですね。